

都市再生整備計画 事後評価シート  
可児市南西地区

平成23年3月

岐阜県可児市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県	市町村名	可児市	地区名	可児市南西地区			面積	931ha				
交付期間	平成 18 ~ 22 年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	565百万円	国費率	0.403						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		〔道路〕 市道50号線、市道38号線、市道8170号線他4路線、市道7019号線他2路線、市道6146号線 〔公園〕 可児川下流域自然公園										
	提案事業		なし										
	当初計画から削除した事業		基幹事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業		提案事業		影響なし		影響なし				
交付期間の変更		当初	平成 18 ~ 22 年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
変更		なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	幹線道路沿線騒音値	dB	71	H16	68	H22	-	66		あり	車道舗装を排水性舗装とすることで、減音効果を実現し、道路機能や騒音面の住環境を改善できた。	-
	指標2	団地内通学路の歩行空間整備率	%	22	H16	50	H22	81	81		あり	団地内歩道付き通学路の整備水準を上げ、安全な通学路を確保できた。また、地区内の歩道整備により歩道の連続性を向上し、歩行者の安全に寄与できた。	H23年8月
	指標3	公園利用者数	人	43,700	H16	63,000	H22	-	78,400		あり	公園周辺道路整備による車アクセス及び歩行者導線の向上、公園施設の拡充により利用者数を増大でき、レクリエーション・アメニティ・機能を向上させた。	H23年8月
	指標4	安心して防災施設を利用できる人数	人	1,050	H16	4,050	H22	4,050	4,050		あり	備蓄倉庫完備の避難所整備により地区内住民が安心して避難することが可能となった。また、上水道、消火栓整備によりライフラインを確保し、災害時に備えることができた。さらに、地区内の道路整備水準を上げることで安全に避難所までのルートを確認できた。	-
	指標5	受益戸数	戸	0	H16	10	H22	10	10		あり	バイパス管を設置することで各家庭へ安心安全な上水道の供給を行うことが出来、ライフラインを確保できた。	H23年8月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	歩道の歩きやすさに対する住民評価度	%	-	-				90			団地内歩道付き通学路の整備水準を上げ、安全な通学路を確保できたこと等の住環境の安全性について、住民の評価により確認できた。	-
	その他の数値指標2	防災備蓄倉庫設置による生活安全度住民評価度	%	-	-				71			備蓄倉庫完備の避難所整備により地区内住民が安心して避難でき、防災性が向上したことを、住民の評価により確認できた。	-
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	「歩道改修に伴う沿線住民へのアンケート」の自由意見より、「交通安全度が良くなった」、「歩道の幅が確保され、安心して通行できるようになった」等、安全・安心のまちづくりに寄与することが出来た。「防災備蓄倉庫設置に伴う対象自治会へのアンケート」の自由意見より、「備蓄倉庫内の備品の使い方を知りたい」や「備蓄倉庫を利用した防災訓練の提案」等、住民の防災に対する意識が向上した。												
5)実施過程の評価	モニタリング		実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
			事業活用調査により、H21年度に ~ を実施 交付金事業の計画変更履歴(当初~第3回変更) 指標中間計測・事後評価時点の数値予測(指標1を除く)				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				将来の他地区計画においても、モニタリングにより中間的な検証機会を設けるよう努める		
			定性的効果のまとめ 指標改善への事業の貢献度										
	住民参加プロセス		運動公園整備協議会 〔実施頻度〕12回〔実施時期〕H16年10月~H22年5月 〔実施結果〕施設計画、事業について地元の合意を得ながら事業を進めることができた。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				将来の他地区計画の主要な施設計画においても、住民の合意を得て事業を進める。		
持続的なまちづくり体制の構築		花いっぱい運動 5カ年計10回、延べ約20万人参加 ロードサポーター 8団体、延べ約7,100人参加				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も継続する			

様式2-2 地区の概要

可児市南西地区(岐阜県可児市) 都市再生整備事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 住環境を再生し安心・安全・潤いのあるまちづくりを目指す 目標1: まちづくりの基本性能である安全性やバリアフリーに配慮した住環境づくり 目標2: やすらぎと潤いや健康増進に資するレクリエーション・アメニティ・機能の向上		幹線道路沿線騒音値	単位: dB	71	H16	68	H22	66	H22
		団地内通学路の歩行空間整備率	単位: %	22	H16	50	H22	81	H22
		公園利用者数	単位: 人	43,700	H16	63,000	H22	78,400	H22
		安心して防災施設を利用できる人数	単位: 人	1,050	H16	4,050	H22	4,050	H22
		受益戸数	単位: 戸	0	H16	10	H22	10	H22
		歩道の歩きやすさに対する住民評価度	単位: %	-	-	-	-	90	H22
		防災備蓄倉庫設置による生活安全度 住民評価度	単位: %	-	-	-	-	71	H22
<p>The map shows the project area with various locations marked. Key locations include 可児川下流域自然公園, 名鉄可児川駅, 名城大学, 農業大学校, 可児市帷子地区あしん歩行エリア, 名瀬バイパス線, 名鉄西可児駅, 可児市運動公園, and 西可児大橋. Projects are color-coded: blue for basic projects, green for related projects, and orange for proposed projects. Photos show completed projects like road improvements, park facilities, and safety equipment.</p>									
まちの課題の変化	団地内の通過車両の増加による生活環境悪化への対応が必要であったが、舗装整備により騒音が低減され、団地内の生活環境問題の解決に貢献した。高齢者および年少者の安全、安心な歩道確保が急務となっていたが、通学歩道整備により、高齢者や年少者にとって安全・安心な歩行空間を確保した。公園機能の充実やアクセス性の向上が要望されていたが、アクセス道路などの整備により、公園のサービス水準が向上した。地域住民の安全確保を図るための消火栓の設置数が基準を下回っていたが、本事業により消火栓の設置数が基準に達した。また備蓄倉庫の設置もあわせて地区の防災力が向上した。新たな課題として、道路整備にともなう植栽、街路樹の撤去により、路上駐車が増加している。								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	排水性舗装の減音効果を持続させるため、舗装の維持管理(目詰まり等の解消)を確実に実施していく。(毎月のパトロール、年1回の清掃の継続的な実施) 都市再生整備計画期間後も事業を継続し、歩道付き通学路の未整備区間全ての改善を目指す。(歩道整備の推進) 予約システムや利用方法の利便性向上やイベント開催等のソフト施策の充実による公園等の利用促進を図る。(公園利用促進ソフトの方策の検討) 市民の防災意識向上にむけてPRする。(可児市防災訓練および地区毎の防災訓練の継続) 交通マナーの啓発を行う。(交通指導(交通指導員等)の継続) 今回の事業では歩道拡幅に伴って植栽を除去したが、他地区の事業で同様のケースが増えることを抑制するため、歩道の拡幅方針を検討する。(歩道整備方針の検討)								